立命館大学研究部
2011 年 5 月 20 日

2010 年度採択　研究推進プログラム「基盤的研究」研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名：文学部・准教授 氏名：加藤政洋
研究課題	**例外空間としての沖縄 ― 米軍統治下における奄美出身者の境位をめぐって ―**

Ⅰ．研究計画の概要

研究の計画について、概要を記入してください。

グローバル化と称される現象のなかでも、とりわけ注目されるのは、地球規模での人の移動がその強度を高め、市民権や主権、そして国民国家といった近代に固有の概念を揺るがしていることだろう。国境を超えていく人びとの移動は、入国管理や（移民・難民の）市民権にまつわる諸々の政策、そして他者と共在することを日常とする社会生活のあり方をも再考する契機となるに違いない。実際、現代社会／思想の見取り図を大胆に描き出すハートとネグリの『〈帝国〉』は、平滑化するグローバル空間を念頭に置きつつ、移動する人びとの市民権の再考を求めている。本研究は、米軍統治下の沖縄において、奄美諸島の出身者たちが不可抗力的に置かれた境位の諸相を明らかにするものである。周知のように奄美は、沖縄に先駆けて本土復帰を果たすものの、沖縄に取り残された人びとは、「琉球住民」としての諸権利を剥奪され、まさに「剥き出しの生」（G・アガンベン）と呼ぶべき境位に追い込まれた。現在ではほとんど忘れ去られた彼ら彼女らの境位、またそのような例外状態を生み出した沖縄の空間性は、グローバル化時代の移動性とその諸権利を逆照射する可能性を秘めている。当時の在沖奄美出身者の境位を明らかにすることは、この点において、グローバル化時代の市民社会のあり方に示唆を与えてくれるものと思われるのである。

以上の研究目的を達成するために、申請者は「スタートアップ資金」として位置づけられる本プログラムの特性を踏まえて、① 米軍統治下の沖縄における奄美出身者の存在様態の把握、そして②一定の地理的範囲において民族的次元が顕在化する居住分化と就業構造の様態の把握、この二点の基礎調査に重点を置いた研究計画を立てた。

Ⅱ．研究成果の概要

研究成果について、概要を記入してください。

本研究の特色は、もはや忘れ去られたといっても過言ではない「在沖奄美出身者」の境位を「剥き出しの生」として捉え返し、米軍統治下という軍事化した生活世界 militarized life-world のなかで、いかにして彼ら彼女らがその苦境を生き抜いたかを考察するところにある。本研究期間に申請者は、まず奄美出身者の移動にまつわるミクロな人口地理について資料を収集し、データの整理と分析、そして若干の考察をくわえた。すなわち、琉球政府が実施した（臨時）国勢調査から、全島における奄美出身者の分布を推定した。さらに群島政府ならびに琉球政府要覧から、1953 年の復帰前ならびに復帰後の一定期間について、琉球に在留した奄美出身者の人口規模の推移を明らかにした。また、こうしたマクロなデータでは把握することのできない居住地分布を県立公文書館が所蔵する『沖縄在住　奄美大島出身者名簿』によって明らかにした。この資料は、出身地についても情報を得ることができるが、未着手である。

次いで、一定の地理的範囲において民族的次元が顕在化した特定の街区についての考察を行なった。すなわち、旧浦添村の I 地区で、ここは 1950 年代初頭、いわゆる「特飲街」として形成された場所である。興味ぶかいことに、この地区に立地した料亭その他の経営者ならびに従業者のほとんどが、いずれも奄美出身者であったといい、郷友会誌や字誌などによれば、その存在は全島に知れわたっていたようである。これは一事例に過ぎないのだが、別の都市においても、女性に特化するかたちのでサービス業に関連する労働市場への組み込みが認められるほか、男性は郷友会ベースで「軍作業」へ参入するなどの就業構造が見出された。